

京都文教短期大学 平成30年度FD活動報告

本学では、教育の質向上をめざした教育の改善に取り組んでいる。本年度は、FD委員会と教務委員会等が連携をして以下の活動を行い、教育の改善の円滑な推進に協力を行った。

【活動内容】

- ① 全授業(専任・非常勤講師)における授業参観を実施する。
- ② 「授業をよくするためのアンケート」(以下「授業アンケート」と略す。)を実施し、結果分析と次年度に向けての調査内容の見直しを、FD委員会でを行った。
- ③ 授業改善を図る制度的取り組みが求められていることから、FD委員会の体制の見直しを行った。
- ④ 「FD研修会」を、教務委員会と連携して3回開催した。
- ⑤ 本年度より、全専任教員にティーチング・ポートフォリオの作成提出を求める。(毎年度末提出)
- ⑥ 学外FD研修会、各種セミナーへの参加

① 授業参観の実施

授業参観は、非常勤を含め全開講科目について年間を通じて授業参観可能として4年になる。参観数の減少が続いているため、FD委員が率先して参観案内などを行った結果、前期・後期併せて昨年より微増の12件となった。

次年度も引き続き活性化の方策を検討する。

② 「授業アンケート」について

前期・後期の各々13回～15回目の授業時実施を、科目担当教員(専任・非常勤講師)に依頼をし、実施した。

科目	学期	開講授業数	実施授業数	履修者数	回答者数	回答率
総合教養科目	前期	60	60	2,460	1,872	76.1%
	後期	43	41	1,381	887	64.2%
ライフデザイン学科 専門科目	前期	45	43	1,342	789	58.8%
	後期	31	30	1,019	619	60.7%
食物栄養学科 専門科目	前期	49	49	1,890	1,368	72.4%
	後期	56	56	1,751	1,240	70.8%
幼児教育学科 専門科目	前期	141	138	5,390	3,266	60.6%
	後期	141	140	5,253	2,474	47.1%
短大全体	前期	295	290	11,097	7,295	65.7%
	後期	271	267	9,404	5,220	55.5%

- ・本年度より全クラスを対象にアンケートを実施したが、昨年に引き続き回答率が改善していない。アンケート結果の信頼性を高めるためにも、次年度も引き続き、回答率をあげる方策をFD委員会で検討する。
- ・次年度に向けて、より学生にわかりやすくなるよう抽象的な表現を極力控え、短く具体的な質問項目となるように変更し、併せて大学内で実施する各種調査項目との重複を考慮に入れて、質問項目の再検討を行った。

③ 授業改善を図る制度的取り組みについて

「授業アンケート」結果は、学期毎に各授業担当教員に書面にて報告される。教員は学期末アンケート結果から得られた所見を活用し、各自の授業法の改善等を記載した「授業改善計画及び報告書」を提出する。

FD委員会では、学期毎に「授業改善計画及び報告書」を集約し、授業改善事例として広く教職員内で共有をはかった。また「授業改善計画及び報告書」については、教育実践に顕著な成果を挙げた授業の担当者に対してその功績を表彰する「京都文教短期大学ベストレクチャー賞」の選考資料の一つと位置づけた。

制度的取り組みの一環として、学外者が参画するFD実施が求められていることから、委員会等の規程を改正し、

次年度より外部有識者参画によるFDを実施することとした。

④ FD研修会の実施

教育の質向上をめざすためには、学習成果の把握やカリキュラム・マネジメント体制の確立等が必要である。本年度は先の点に関係する内容の理解を深めるために、以下の3回の研修会を実施した。

◆第1回 8月31日(金)

テーマ：「3つのポリシーを一体的に策定し、カリキュラム・マネジメント・サイクルを回していくこととは？」

概要：18歳人口と進学率の推移等、大学教育の現状確認とともに、教育の質保証に向けて、3つのポリシーの策定およびカリキュラム・マネジメント体制確立の必要性を共有した。また、具体的な方法としてカリキュラムマップの作成や学力の3要素を軸とした学習成果の可視化について提案がなされた。

講師：ハウインターナショナル 桑木康宏氏

参加者：全専任教員、職員(希望者)

◆第2回 11月28日(水)

テーマ：「シラバス作成方法について」

概要：教務委員会においてカリキュラム系統図を踏まえた到達目標の設定と、それに合った授業方法と評価方法の見直し、授業外学習の明示、アクティブラーニングの推進やICTの活用の推進に向けた授業計画の立案等について、シラバス改善案が示され、研修会にて共有がなされた。

また同委員会ではシラバスチェック体制等の見直しを行ったため、シラバス完成までの記載内容改善の流れについて説明があり共有された。

講師：教務課 塩竈義晴

参加者：全専任教員、職員(希望者)

◆第3回 2月20日(水)

テーマ：「アセスメントポリシーをふまえた成績評価について」

概要：内部質保証システム(PDCAサイクルの回る組織)の確立、3つのポリシー相互の関連をふまえたうえで、求められる成績評価の方法に関する講義が行われた。また、所属大学で行われている授業での具体的な事例が紹介され、共有された。

講師：沖裕貴氏(立命館大学 教育開発推進機構 教授)

参加者：全専任教員、職員(希望者)

⑤ ティーチング・ポートフォリオ作成について

大学教員には、教育面・研究面の業績が求められている。しかし本学では、多くの教員が授業改善等の教育に力をそそいでいるにも関わらず、教育面での業績が研究面と同等に位置づけられているとは言いがたい。そこで「ティーチング・ポートフォリオ」(簡易版)を通じてその教育業績を可視化することを試みた。

「ティーチング・ポートフォリオ」は年度末に学長に提出する。これは「授業改善計画及び報告書」と同様に「京都文教短期大学ベストレクチャー賞」の選考資料の一つと位置づけた。

⑥ 学外FD研修会、各種セミナーへの参加

本年度は、大学コンソーシアム京都主催のFD合同研修プログラム等、学外のFD研修会およびセミナーに教職員4名が参加した。他大学の有効な事例を収集して本学での活用を検討する等、学外研修内容を学内研修会で役立てることも必要であることから、次年度も種々の学外研修の場を紹介するとともに、情報の共有・活用を行う。

⑦今後の課題

次年度も引き続き教育の質向上に向けて、FD活動の活性化を進めていく必要がある。

次年度よりシラバス記載内容・方法を変更したことと、今まで紙ベースで実施してきた「学修ポートフォリオ」を、新たなシステムを導入することにより効率的な学習成果の可視化をはかり、学生と指導教員との面談を通して、学生の学習支援に繋げていけるよう活用する。

また、授業改善のためにFD委員会では、具体的な事項として、学生による授業評価の有効利用がある。また、教員間での授業参観の活性化をはかるとともに、教員間で授業方法の改善策などを考えていくためにも、引き続き研修会を実施していく必要がある。

カリキュラム・マネジメント体制の確立については、教学協議会にて検討を進めていく。